

従業員の皆さまへ

## 発がんのリスクと血液型の 意外な関連

ポストコロナの職域がん対策 — vol.18



私の血液型はO型です。資料などが散らかった部屋を訪れる人に「先生はO型ですよね～」などからかわれたりします。O型はおおらか、A型はきちょうめん、B型はマイペース、などと言う人も多いようです。

しかし、ABO式血液型で性格が左右されるという科学的根拠はほとんどありません。海外の友人と話しても、日本の「血液型性格分類」は奇妙に思われているようです。

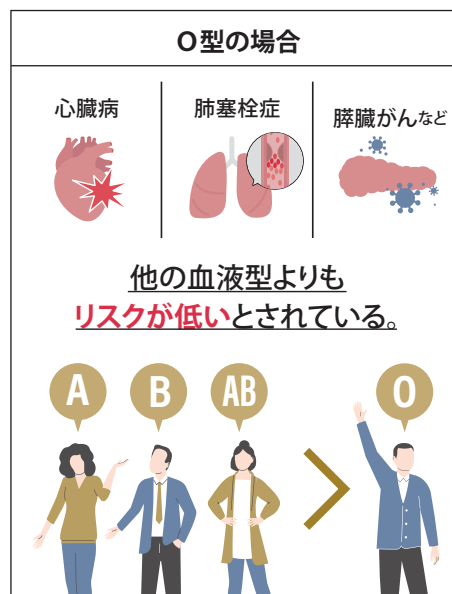
例えば白血病の治療で骨髄移植を行う場合、移植したドナーの骨髄が血液をつくり出すようになるため、患者の血液型がドナーの型に変わることがあります。骨髄移植の前に全身に放射線照射(最大1万2千ミリシーベルト!)を行うことも多いため、血液型が変わった患者と接することは珍しくありません。しかし、血液型の変更で性格まで変わったという患者は一人もいません。

しかし、このABO式血液型によって病気の発症リスクが異なることが明らかになりつつあります。心臓病や肺塞栓症(エコノミークラス症候群)など多くの病気において、私のようなO型は、A型、B型、AB型の人よりリスクが低いとされています。

膵臓(すいぞう)がんの発症リスクも血液型に関連するというデータが集まっています。2009年に米国立がん研究所が発表した研究で「O型の人はA、B、AB型の人に比べ、膵臓がんになりにくい」と結論づけています。

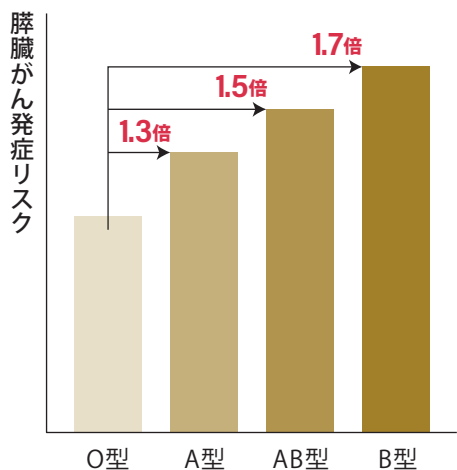
### 血液型と病気の 発症リスクの関連

ABO式血液型によって、病気の発症リスクが異なることが明らかになりつつある。



この研究では、米国の医療スタッフ約10万人を8年以上にわたり追跡しました。そして、調査期間中に膵臓がんを発症した316人について喫煙、飲酒、年齢、遺伝など他の要素を除外したうえで、発がんと血液型との関連を分析しました。その結果、膵臓がんの発症リスクはO型が一番低く、B型のリスクはO型に比べ約1.7倍、AB型は約1.5倍、A型は約1.3倍でした。

## 膵臓がん発症リスクと血液型の関係



日本や台湾でも同様の調査結果が出ています。胃がんがA型に多いというデータもあります。ただ、血液型より日々の生活の方がはるかに発がんリスクを左右します。

まだまだ心配な新型コロナウイルスでも血液型との関係が指摘されています。中国、武漢で新型コロナウイルスに感染した患者の血液型を調べた研究結果では、A型の血液型を持つ人は、新型コロナウイルスの感染や死亡のリスクが高く、O型がもっともリスクが低いことが分かりました。

イタリアやスペインでの分析でも同様の傾向が示されており、A型の人には要注意と言えるでしょう。

なお、A型の人にはマラリアなど他の感染症にも弱いとされています。

O型の私に有利なデータを紹介しましたが、胃や十二指腸の潰瘍はO型に多い傾向があります。また、救命救急センター2施設に運ばれてきた901人のデータでは、O型の人々の死亡率はO型以外の人の2倍以上になっていました。O型の人では、血液凝固因子の一つが他の型の人より3割も少ないため、大げがによる出血が止まりにくいことが原因の一つとされています。O型に心筋梗塞が少ないのも同じ理由でしょう。胃潰瘍、十二指腸潰瘍での死亡が多いのも、潰瘍による出血が多いためでしょう。

血液型を変えることはできませんが、生活習慣を変えることはできます。禁煙、節酒と運動でがんの予防に心がけましょう。

## O型の特徴

血液凝固因子のひとつが他の型の人より**3割も少ない**

30%  
down

大げがによる  
**出血が止まりにくい**

心筋梗塞は少ないが、胃や十二指腸の潰瘍はO型に多い傾向がある。



### 中川 恵一 (がん対策推進企業アクションアドバイザーボード議長)

東京大学大学院医学系研究科 総合放射線腫瘍学講座 特任教授、厚生労働省 がん検診のあり方に関する検討会構成員、がんの緩和ケアに係る部会座長、文部科学省がん教育のあり方に関する検討会委員など。

東京大学医学部医学科卒業後、東京大学医学部放射線医学教室専任講師、准教授を経て現職。緩和ケア診療部長、放射線治療部門長などを歴任。著作には「がんのひみつ」「コロナとがん」などがんに関する著書多数。日本経済新聞でコラム「がん社会を診る」を連載中。

YouTube

「オトナのがん教育」講座 「教えて中川先生!がんって何?がんになっても働けますか?」

好評配信中!

